



シリーズ  
沼津兵学校とその人材

## 外国人の見た沼津兵学校

## —The Far East 465—



沼津兵学校の生徒たち

「ファー・イースト」は、明治三年にイギリス人ブラックが横浜で発行した英文の雑誌である。日本の風俗・歴史や紀行文・随筆などを掲載し、写真もついている。当時の日本を知るには大変貴重な史料である。

以下に紹介する翻訳文は、明治四年夏、富士登山のための旅行の途中、沼津を訪れた三人のイギリス人の紀行文であり、「ファー・イ

ースト」に寄稿・掲載されたものである。沼津兵学校での授業風景や沼津城内の様子・沼津病院のこゝろなどが外国人の目から観察されており、大変興味深い。また生徒を写した写真とそれをめぐるエピソードも実に面白い。

なお、紙面の都合により、一部省略させていただいた。

「第五日

嵐で、風の強い晩であったが、朝方には晴れ上がったので、私たちは多くの護衛を連れて沼津の町の見物に出かけた。まず私たちは数軒の見せ棚に行き、物価が横浜に比べてたいへん異なっているのに注意した。それからさらに学校に行き、授業中の教室を見た。最初の教室では、人々が大きな黒板を前にして着席し、英文法を学んでいた。次の教室ではゴールドス

ミスの古代ローマ史の授業中で、百二十人の生徒がおのおの自分の番がくると声を出して本を読んだ。そのあとで私たちは主な教授たちに引きあわされた。彼らは私たちの入っていくとき、

「How do you do?」（はじめまして）と言ひ、立ち去るときには、

「Good bye.」（さよなら）

と言ひ、その英語はたいへんいい発音だったが、しかし、この二つのあいさつが、彼らの英語で言うとしたすべてであった。痛んだヨーロッパ風の籐椅子をすすめられたが、私たちには、いつこわれるかもしれない椅子に坐る危険を冒すよりは、床（か）に坐るほうがよほど安楽であった。この学校は古い城の中にあり、ある大名の紋所が今なおどの教室の壁にも飾ってある。城の周囲には望壁がたくさんあり、一つの濠をめぐらしてあるが、あらゆるものは整然と維持されている。町から城への入口の門構えはたいへん丈夫な石造物であるが、門はどれも木造でしかたないへんずっしりとした厚みがあり、木材はいずれも鉄棒で強く締め合

せてある。城から出て、私たちは病院のほうへ歩を進めた。ここは細長い低い二階建の木造建築であった。患者たちは各室四つないし五つのヨーロッパ風の寝台に寝ていた。窓はいずれも、通常の薄い白紙で覆われた小さな四角な枠の代りに何枚かのガラスがはめてあった。この白紙が日本ではガラスの代りをしているのである。薬局にはヨーロッパの薬剤がぎっしりあって、人々はグリセリン小瓶一個を私たちにくれたが、これはのちになつてたいへん貴重な贈り物だったことを知った。室内には空気が光が満ちており、弱り切った来訪者にも、こよなくやかましい医家にも気にさわるところが全くない状態であることを認めた。私たちの訪ねたとき、この病院には二十四人の患者が入っていた。支出の全額は、前の將軍家によつてまかなわれているとの話であった。この数の倍の患者を入院させる余地がある。（後略）（以上「新編物語藩史」第五巻所収の金井圓氏訳を転載）

「学生達

沼津の学校で英文法を勉強していると言っていた若い紳士達は、一五七ページで紹介した彼らのグループによってよく描写されている(筆者注、写真のこと)。彼らは紳士の子供達であり、すべて幼少時から二本差の権利がある。彼らは途方もない程競争心と忍耐とを持つている。彼らの誰一人として知的な容貌をしていないものはいない。しかしながら、面白いことに彼らから迷信を取り去ることはできないようだ。というのは、あの写真が撮られた後日、彼らの一人が、ホテルに技師を捜し出し、ネガをやぶいてくれるように懇願したのである。写真を撮られたら近日中に必ず死ぬと言って、父親か先生に、あのグループの中にいたことをしかられたからだ。彼のその懇願が聞き入れられたかどうかは、読者諸君には、御覧の通りおわかりでしょう。しかし、彼の顔が世界中に送られているにもかかわらず、我々は彼が末永くしあわせな人生を楽しむよう祈っている。(以上拙訳)

江原素六とその周辺(2)

洋学の師・近藤真琴のこと



近藤真琴

文久三年春、講武所砲術教授方になっていた江原素六は、開塾されたばかりの近藤真琴の私塾に通うようになった。

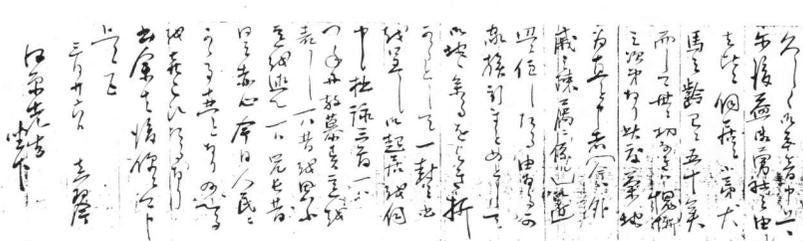
近藤真琴は、維新後攻玉社という私塾を開いたが、それは、福沢諭吉の慶応義塾、中村正直の同人社と並んで、明治初期の三大私塾と呼ばれた。また、文科系の慶応義塾に対して、理科系の攻玉社と言われるなど、明治初期において攻玉社は私学の一方の雄であった。近藤自身、明治政府に仕え、海軍操練所―海軍兵学寮―海軍兵学校の教官として、帝国海軍の創設に力を尽したが、攻玉社からも多くの人材を海軍へ送り出し、攻玉社は海軍兵学校の予備校とまで呼

ばれた。有名な人では、広瀬武夫、上村彦之丞、鈴木貴太郎、財部彪、加藤寛治、大角岑生らが出身者であり、大将一五人、中将六九人、少将一一八人、合計二〇二人もの海軍将官を生んだ。

また、軍人ばかりでなく、商船学校をつくって優秀な船員を養成した。近藤は、近代日本を背負った海の男たちの育ての親であり、海事教育の先駆者といわれる。

文久三年、江原が入門したころの近藤塾は、江戸四谷坂町の鳥羽藩邸内にあり、まだ攻玉社という塾名はなかった。蘭学・数学・航海術などを教授し、塾生は二十数人であった。江原は、主に洋算を学んだようである。近藤は、江原より十一歳年長だが、この当時二人はまだ三十代・二十代の若者であり、師弟というより、親友関係にあったらしい。慶応四年三月、江戸開城をめぐる、抗戦が恭順かで苦悩し自害しようとした江原

を近藤が諫止したというエピソードは、江原の伝記に詳しい。明治になってからの二人の交友を示す近藤の書簡も一通残されている。  
 〈参考文献〉『近藤真琴先生伝』・『攻玉社百二十年史』・『図説教育人物事典』上・豊田穰『夜明けの潮』・『江原素六先生伝』



▲江原素六宛近藤真琴書簡  
 明治13・4年ころのものと推定。久瀧を叙し、和歌を3首同封した。

お知らせ欄

◎企画展「間宮喜十郎」展を開催  
します。



間宮喜十郎

来る九月一日から翌年一月七日まで、企画展「間宮喜十郎」展を4階展示室で開催します。当館では沼津兵学校とそれに関わった多くの優秀な人材を取りあげクローズアップしていきますが、今回は明治時代の沼津教育界に多くの影響を与えた間宮喜十郎を展示紹介します。

沼津宿本陣を勤めた間宮家の長男として嘉永三年に生まれた間宮喜十郎は、沼津兵学校附属小学校に学びました。明強舎や沼津巖の校長を歴任し、多くの著作を残し「沼津文庫」と名付けた図書館の創設や「沼津新聞」の創刊をするなど、四十六歳の短い人生を果敢に生きた姿を紹介します。また、

間宮本陣の貴重な資料も初めて公開されます。

開館時館は9時から4時半まで。休館日は月曜日、祝日の翌日と月末日です。

◎歴史講座「沼津兵学校」の受講生を募集中。

10月6日から毎日曜日に計6回にわたる連続講座として歴史講座「沼津兵学校」を開催します。

明治維新直後、駿府に移封された徳川家によって静岡藩の藩校として創設され、日本の近代化に偉大な足跡を残した沼津兵学校を、洋学史・軍事史、教育史、医史、思想史・人物論、地方史の各分野

の一流講師陣により、多角的に掘り下げて紹介します。

また最終日には、今井正監督の処女作として昭和13年に封切られた東宝映画「沼津兵学校」の上映も予定されています。(日程左表)

二度と得られないこの機会に是非受講して下さい。お申し込みは当館まで電話にて。受講料無料。

◎小野隆雄新館長が着任。

当館の館長は、これまで松岡剣次社会教育課長が兼任となっておりましたが、六月一日より前教育委員会次長の小野隆雄が専任の館長として着任いたしました。今後ともよろしくご協力下さい。

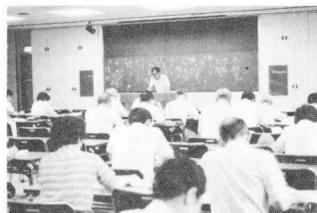
歴史講座「沼津兵学校」日程

(会場：明治史料館講座室)

日 時	講 師	内 容
10月6日(日) 午後2時～4時	所 莊吉氏 (軍事史研究家)	「日本近代化における沼津兵学校の位置づけ」
10月13日(日) 午後2時～4時	四方一洙氏 (国士館大学教授)	「沼津兵学校附属小学校の教育とその開明性」
10月20日(日) 午後2時～4時	土屋重朗氏 (医史研究家)	「沼津病院とその医師たち」
10月27日(日) 午後2時～4時	田村貞雄氏 (静岡大学教授)	「西周の思想と行動——沼津兵学校とその前後——」
11月3日(日) 午後2時～4時	辻 真澄氏 (前駿河図書館長)	「沼津兵学校と地方出版文化について」
11月10日(日) 午後2時～4時	映画上映会	映画「沼津兵学校」(東宝) 昭和13年 今井正監督

◎古文書解読入門講座始まる。  
当館主催の古文書解読入門講座(連続5回)が6月8日から講座室を会場にスタートしました。

今回の講座には定員の倍を超える受講の申し込みがあり、予想外の好評を得ました。「昨今の古文書ブームに加えて、土曜日の午後という時間帯の設定が、新しい受講者層を開拓したのでは」と館側では分析しています。



講師を担当するのは沼津市立高校の友野先生。館に収蔵中の比較的やさしい郷土史料をテキストにしながら、受講生はミニズハハタクツク、ようなくずし字と熱心に取り組んでいきます。

沼津市明治史料館通信 第2号

編集 沼津市明治史料館  
発行 沼津市西熊堂372-1

〒410 沼津市西熊堂372-1  
☎〇五五九(三)三三五